

野田村にハイブリッド街灯



津波で流失した野田村中心部に設置されたハイブリッド街灯。左から順に小田祐士
村長、宇野禎倫社長、沢隆裕社長、佐々木憲昭開発主任

黒石市のモーター製造会社「UNO」(宇野禎倫社長)は18日、東日本大震災で流失した野田村中心部の三差路に、風力・太陽光発電による小型のハイブリッド街灯1基を無償で設置した。夜間の通行時や災害で停電した際の誘導灯としての活用が期待され、村は稼働状況を見ながら増設を検討する。

(佐々木琢磨)

街灯は高さ約4メートル、3・5ワットの発光ダイオード(LED)が暗くなると自動的に点灯する。設置は小田祐士村長が昨年末、小型発電機を製品化している同社を知り、街灯の

機器製造会社「ジョイ・ワールド・パシフィック」(木村清勝社長)に電力の制御機械を製作してもらい、街灯を作成させた。

この日は、宇野、沢小田村長とジョイ・ワールド・パシフィックの佐々木憲昭開発主任の3人が村役場を訪問。小田村長と懇談した後、三差路に街灯を設置した。

宇野村長は「少しでも街を明るくし、村民に安心感を与える。まずは同村で明るさなどの状況を見ながら、他の沿岸被災地でも需要があれば展開したい」と意気込んだ。

小田村長は「震災時、ライフルインで水の次に困るのが電気。ハイブリッド式の街灯

災害時の誘導灯に

黒石のモーター製造会社 無償設置

開発を依頼したのがきっかけ。

同社は新たにハイブ

リッド式の発電機を製作。日頃から付き合いのある平川市の機械製造会社「ビーシーブランド」(沢隆裕社長)に支柱部分、同市の精密

機器製造会社「ジョイ・ワールド・パシフィック」(木村清勝社長)に電力の制御機械を製作してもらい、街灯を作成させた。

この日は、宇野、沢小田村長とジョイ・ワールド・パシフィックの佐々木憲昭開発主任の3人が村役場を訪問。小田村長と懇談した後、三差路に街灯を設置した。

宇野村長は「少しでも街を明るくし、村民に安心感を与える。まずは同村で明るさなどの状況を見ながら、他の沿岸被災地でも需要があれば展開したい」と意気込んだ。

小田村長は「震災時、ライフルインで水の次に困るのが電気。ハイブリッド式の街灯